

(2018年7月1日発行)

NHK ラジオ深夜便「明日への言葉」

7月13日(金) 4時台放送

～平塚らいてうの思いを受けついで～ 「らいてうの家」館長 米田佐代子さん

聞き手 坂口 憲一郎



米田さんは、昭和9年のお生まれ、平塚らいてうの研究者。平塚らいてうは「元始、女性に太陽であった」という言葉でも知られていますが、「女性の力で平和な世界を」と訴え、「私たちの敵はただ戦争だけ」と強く主張してきました。女性の地位向上、権利拡大に、生涯を尽くしたと言ってよいでしょう。

米田さんは、戦後、男女共学制度1期生として長野北高校に入学。女子生徒は2人。トイレは男女共用。男子は、彼女たちと口を利くのはばかられ、クラス集合写真は、彼女の両サイドは、男子が傍に座らず隙間。これが男社会で、人生を切り開く始まりだったのです。研究者として大学の職場では、男性社会の圧力に耐え、夫婦別姓を貫き、大学職員組合委員長をやり、平塚らいてうの平和活動に共鳴して歩み続けた方です。

戦争を起こさないためには、女性の役割が大きいという平塚らいてうの精神は、米田さんの実体験でもあります。米田さんの母、ひささんは、太平洋戦争末期、次男の吉二さんの思いつめた望み、予科練、海軍少年航空兵志願を許してしまうのです。吉二さん15歳。夫は、戦地で、最終判断を、母親のひささんが決断せざるを得なかったのです。程無く8月15日終戦。まもなく帰ると待ち受けていても音沙汰なく、戦死の知らせがあったのは、しばらく後の事でした。

なぜあの時「志願していいよ」と言ってしまったのか。母として言うべき言葉でなかったと、90歳の死の直前まで、母としての痛恨の思いを書き綴っていたと言います。

お話を聞かせて頂くと、戦争を起こさない為に自分は何をしたらよいのか考えさせられます。

◀編集室から▶ 編集：高館千枝子 tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

◇感想の送り先：sakaken1943@gmail.com (坂口 憲一郎)

◇米田佐代子の「森のやまんぼ日記」より抜粋 (<https://yonedasayoko.wordpress.com/>)

—不思議な縁があって、NHK ラジオ深夜便に出演することになりました。この番組は知る人ぞ知る長寿番組で…有名無名を問わず多彩な方が登場して人生を語る「明日へのことば」と、リスナーをひきつけてやまないらしい。…ある日、突然前回とは違うディレクターの坂口憲一郎さんから電話をいただきました。そのきっかけは、彼が昨年7月、千田ハルさんにインタビューして釜石艦砲射撃を語っていただいたことがあり、その後わたしが千田さんに女性文化賞をさしあげることになったという経過もあってわたしを知ってくださったようです—



※写真：2018年1月27日、女性文化賞受賞式(於 釜石市内ホテル)。米田佐代子さん(右)と千田ハルさん(中央)